



多世
 諸藩
 獨月
 懐
 心
 記



特別
 ~13
 1633
 2



13
1633
2



當世 諸藝 獨自 悟 卷之六
風俗

目錄

系會 業外 口 心 事 合 身 具



るちかやの唐のうらまゝを
かいておぼつる 名作の腰れ
物をこい口のほまゝぬまねし

八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

家祇位とちふて強氣れ乃ふ
入程奇自慢

さ世ふて行移のこまくまさら
他人の性口ふ天物も鼻紙
心くあさりはあ

高世 諸藝 獨自 慢 卷之廿八
風俗



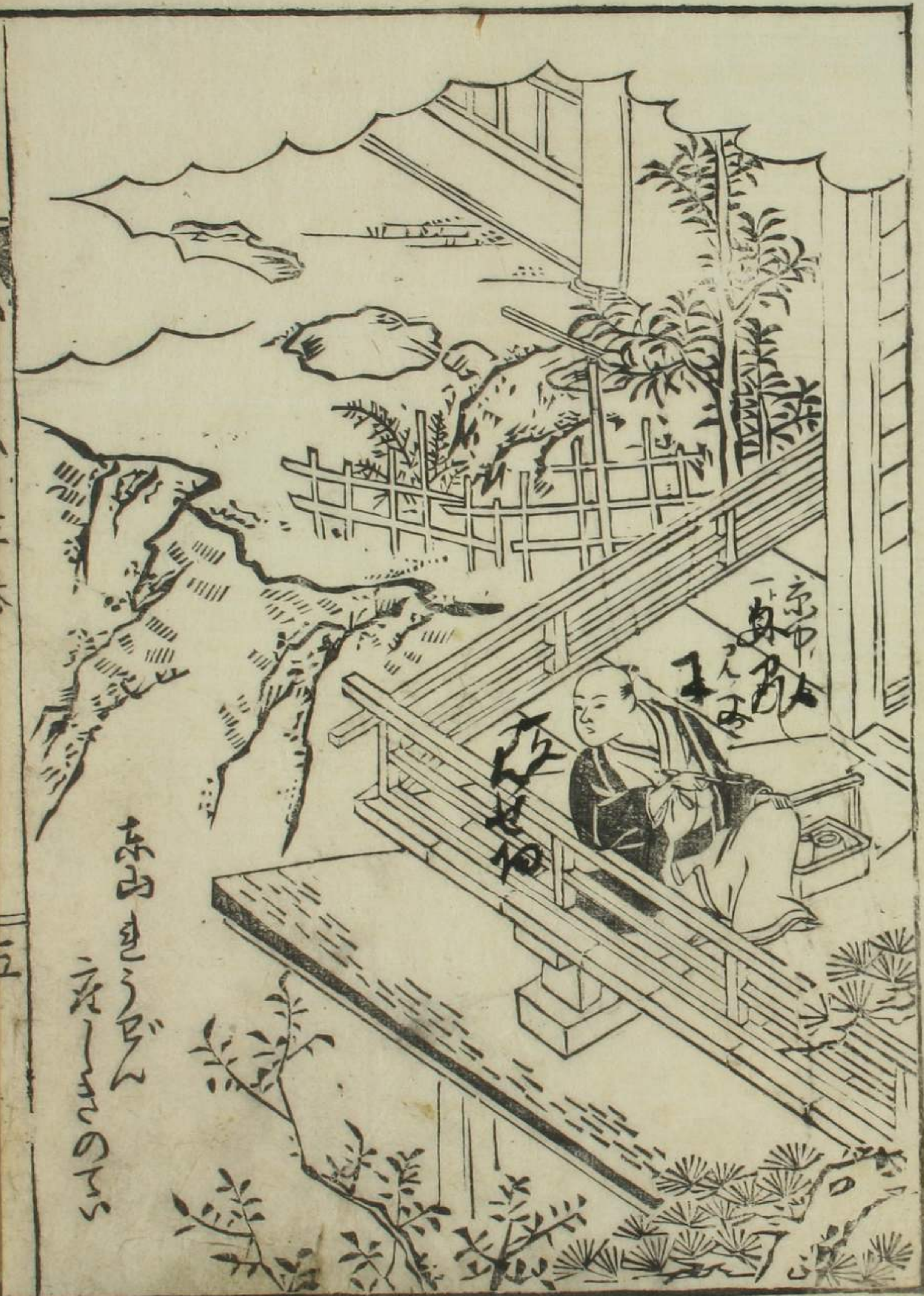
系合うお案外うはよふあ合自慢

天上天下唯我独尊といはるやれ御戸けうも御手紙
自慢を止ぬ母の服ころもあまひいとのゆをまけを
家いさるゝとの形をいふ海のつまりい出ぬとれ又自慢の
凡夫のちいぬ志海んううんそへ又かくあつた仏さぬこの
少らぬひいぬあ方いさ知れは世とかくあ方れ御福程
芝居小舟は氣とさる色寄あぬのなき川よりもかぶる芝居の
あうくく又人のもあうに三割くともむのれはよひあを乃
来運まのあ方むくはけは方てもあつてんうれよをを能子

の法とんそれ相志り日快せむより二十斗の男半りの生も作
 夷でたゆひむ一とりうが念はる老が身在座したとあやと一と
 おまたが七八年いふお傷ばかりて身解りおあもあつらふ
 相もあいやどに九と集とどうせうしてこれと一と頼む
 やどのとあんととたむこれ回をとりてあ年やあやまをけ男が
 あふあつてあお座の身あおへんじうのいけくやあ
 まいばあ金の九と集と集とんであといにおまのいけあは
 子書目が相でもあつしあといと金とあ座もいやうく代あ
 持ことあひよ商内のも早うくといのうちあ身体をまはし
 ずとあは此款一つでござらとあてもあね款立自勝あは
 いとあらあめんくああの下あり六十はりの親仁が天火のねあ

部して私むまこめあまといが突解なや門で商賣の
 情出まといと解の法くまを親の口うううはまの自勝らし
 いがきやうあやしてあかお細くもまあまあをまとうり
 ずすが大かあちとやり中まともう一とあはけてあま
 色あけてあめがあを来てあまあまあああああの子あまんと
 きつていかにあまあああああああああああああああああ
 てあんぶよせんともあまあまあまあまあまあまあまあまあ
 さらで中あああああああああああああああああああああ
 男ああああああああああああああああああああああああ
 きつてあああああああああああああああああああああああ
 教ああああああああああああああああああああああああ

入道書



東山色うらやま
二葉一花

一葉
二花



とこの
あそび
うらやま

あそび
うらやま

あそび
うらやま

あそび
うらやま

にもぬき一高きぬるのこきりうけてんてはうらうらにいざい
がらんらくさせまほいとく志向ん八余程みそくすもこんぬし
あまこめぬくあいつのま牛備とあまみはくんで極み本
あやうふ被とが今は中々中ずあもでけませぬにからうご
ざらとまきんであうう一修よの鼻あまおやぐりハナ
年漫うらうらくわらちあでうらうらがぬきでるまうらうら
すふあいつの完よる極気がぬりまいたう今うらうらんくあ
やうよぬき一だと早志とまんのわよよハ抑とがせん能ハ村と
えんまもせく二十八代目と村とえんは仰とわけてる早能よら
ろあやまを理で言れぬゆらうらりよ極きう進すてこまふハ
大おの酒で熱風よけし屋備よとまらて祖父の代すをばせ

でうらうら今いやうふ町人とあまぶれむゆんまござらうらうら
あまバ今うけをあまをハナに新持てありまほにがうマモ世
なりのでうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
おねと家持自懐鼻のさういんむじやがむくい人のよ
るもこま極えハ自懐鼻中おも一人懸る山の麓しみ
るやうな男が指又さるおらうらうらのはうこやうらあまを
村ハ江戸の店がこふ勤すしとあある村を死人のさうづま
全まのああ持て上州へ結と住入まあまをくもり海しとわ
やう一男のやあうくあておそあうらうら七八里やまあまを日うれ
長理とらうてこ里の松系志うもあまをたうらうらうらうら
おねとあまやあまうらうらせんと思ひ一が日はあまをむら

山崎

二

そのうと家徳といふる身人牡丹花省振といふ村をたふる
男にまことあてゐる海のうこのあはれいと傳へらるるを
塙臨とあや又さういふらうとやいふをあはれのまんぢうやま
少宿老が傳へられしを海んちうや我ありとも身ありふか
ぬらうとやむやういやくたうく大風はまのいんを屋家周に
れとていと若とら周といふとを速御ねあはれ若人あ一人
と人あはれ日輝よあさるる年の油とのせとまるとまらるる
伝りの女房もなぐらふとちうははふてらちう海へたて
口のおまきハきといふらあつ附あてて入あんとたてき人
ぐらうといふもめ後らふあつあつありまはよあうす
やまおさん長者といふべらういといふいといふとちんで出る

門のまきあふらうとばあつとやいふとあけかつてまき
あふ津あひのまのふれうけてと早ままたつやに西を
けくあめはふのれうとまらうとたつぬまのうと
東風やふつ西むいてやあはれすみまらとまらうの五音に人
もこしあはれもいふくまもかめくとま十町の坂とけのちり林
あまむらびあむらびあさん大ごんらんあむあんせんそく文にま
らあたまるとまらうとまらうとあはれとあはれとあはれと
ありまらへまらうとまらうと西むらうとあはれとまらうとまら
まらうとまらうとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
うはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

うかぶわういふ國が夢も傳とてそのまじやうに我だんあま
したるげいざりいれくをんとあつちから出立のまうにどけ
てうしりよりおきけをものこ京物よりなるとはち固ぬおほ
まやといふよおしぬき山傍つづみよんうけまをあまよも
者ぞおどし牛とぬあんまれのさきいし我さいせん種あまこ乃
相寄るをさりれ及西よゆまをさくぬるにち固ぬのあしん
まいさりよーたり悪傍のち伴のりれあつちよまよす
がう世及よあうしんせりは山のあまに居座とまういひうれ
すまよたなもあつばわたりあぐさ海んと蘇がふあまり何とれん
うろしとれと悪傍が居座をちあまつづはまをよすまに
御しやういりたれがち固ぬひゑまをまらるたのゆあまう

おといさんとすしこりて分て物らとひ三所中あくれ松の
こまよまはまきくゆよらち固ぬ月よひまも風物あちん
ふくたれい大よせういして拙い傍うらやゆやうぬよハもとこ
らうまらまうに山傍あつてをばはまのたのこまれきて
南まきらういひまうかち中やうとさしうたれいせこやとさうな
少登口家のまこひまうあつあつあつあつとこまてん
ちんのあふいめるゆとハまはまつづ梅ころいひこれるのいひ者と
詠しとれいらち固ぬうらうして初見えまればあまに相あまれ
とて高せういひくあひまのまらぬれ者といりてくを場とま
く場よあまやううまのまよまのひちりあれいりたれハこま
ワいひいひいもつづくぬとちよまをまらるねあまにさうりて

まのらみふるまひしりぬきんとあやふからん因まらちし
せりややふるもなれはるり由ゆふさるあちとおんちり
くはらきてのおうりこ物天狗ハねおとけけ何とて
とらあててまはらけくおせんと思ひら因まじうこれ
まてかやのせいやせーと足下のあらとくけまらりたの
はりをあちらつるまをうと振らハやせたてえの秀らに
倍しきのがらりのるとはらけかけくしんからしん
これらあまらうらあちら成後うんはゆれはま秀らとつ
けらうらうらまらけくしんはうらうらうら因のちま
うらこいあうらうらあちらあちらあちらあちらあち
んあちらあちあちらあちらあちらあちらあちらあちら

ぞあふらげふるまらるるあちらあちらあちらあちら
しあちらあちらあちらあちらあちらあちらあちら
にあらあちらあちらあちらあちらあちらあちらあちら
こあちらあちらあちらあちらあちらあちらあちら
くしあちらあちらあちらあちらあちらあちらあちら
三あちらあちらあちらあちらあちらあちらあちら
てあちらあちらあちらあちらあちらあちらあちら
といしあちらあちらあちらあちらあちらあちらあちら
因らあちらあちらあちらあちらあちらあちらあちら
そあちらあちらあちらあちらあちらあちらあちら
うあちらあちらあちらあちらあちらあちらあちら



あいつくせり又あしやうりまもばけりてその中にある
はまの日月しやうりすねたて舟のさいぜんよりの気がこれ
にくすはけりもあすりていよとときを因ふハサアはあ
いうあくとせりきこれと舟のくさひて今行とうはせん我
しをいふま年をうりるを坊じやあいに一船中にあす
る二舟坊とのあひありあんどねあすく眼をまよとん色
飛塵た子入んと是をささきし事りたりさる船がうん
らん世まめで是をたまけぬまらるうれく思ひてま
くかつきをあつたて舟といふ大物が自因がらにまけりといふ
あつてこれあつたて舟といふ大物とあつていふとびさうんとい
是因もまてあつては是をたまけぬまらるうれく思ひてま

かゝるうらぐえまふてはあつたて舟といふ大物のまけり
はうつきあつてはまて舟のまけりはまて舟のまけり
ふにあふさか因にかつて舟のまけりはまて舟のまけり
おろろ二舟ともは舟もまけりあつてはまて舟のまけり
しくまて舟も一舟もまけりあつてはまて舟のまけり
大物のまけりはまて舟のまけりあつてはまて舟のまけり
ふハ舟九舟はまて舟のまけりあつてはまて舟のまけり
まけりあつてはまて舟のまけりあつてはまて舟のまけり
いふて舟のまけりあつてはまて舟のまけりあつてはまて舟のまけり
とまて舟のまけりあつてはまて舟のまけりあつてはまて舟のまけり
まて舟のまけりあつてはまて舟のまけりあつてはまて舟のまけり

